

〔研究ノート〕

「中国における日本語専攻大学生の 就職活動に関する調査」報告

宋 艶 平

(社会学研究科産業関係学専攻博士課程 (前期課程))

浦 坂 純 子

I はじめに：調査概要

労働力のグローバル化が急速に進展しているといわれている。筆者の一人（浦坂）は、かつてゆとり教育に象徴される日本の教育システムの変化が、職場における教育訓練の困難、ひいては労働生産性の低下をもたらし、優秀な労働者を求めて海外へ目を向ける事態を招いているのではないかと問題意識から、中国進出日系企業に対する聞きとり調査を実施した⁽¹⁾。

その結果、中国の労働市場は、単に安価な労働者が無限に供給されるという意識のみでは対応できない要素を抱えていること、調査時点では単純労働者の供給に制約は存在しなかったが、一定以上の技能や経験を有する労働者の確保は次第に難しくなっていること、特に大卒の技術系労働者に関しては、幅広い基礎学力や視野の広さでは日本人のほうが優れているが、語学力、コミュニケーション力や専門的技量に関しては、中国人のほうが優れているという評価が多いこと、などが明らかになった。

このように、日本人であることにこだわらない人材活用の下地が形成されつつある一方で、わざわざ海外まで出向かなくても、優秀な外国人労働者と接点を持つことができる機会は飛躍的に増加している。その象徴的な事例として、文部科学省が2008年に策定した「留学生30万人計画」が挙げられるだろう。そこには日本社会のグローバル化を目指して、卒業・修了後の社会での受入れの推進（雇用の促進）が明確に謳われている。なお、独立行政法人日本学生支援機構の平成20年度外国人留学生在籍状況調査によると、2008年5月1日現在の留学生総数は過去最高の12万3829人（前年比4.5%増）であり、出身国別ではやはり中国が最も多く7万2766人（前年比2.1%増）であった⁽²⁾。

以上のような状況を鑑みるならば、今後雇用の入口において、国籍や学んだ場所にか

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

かわらず、よりボーダレスな採用、就職が展開されるはずであり、その環境の変化に対応できるだけ柔軟さが、企業側にも労働者側にも求められるようになるのは必至である。それは、雇用の入口だけにとどまらず、その後のキャリア形成を考える上でも同様だろう。

そこで、まずは雇用の入口である新卒労働市場において、日本の大学生と競合する可能性が高まりつつある中国の、かつ日本語が堪能な大学生を対象とし、その就職活動の実態を把握しながら、どのような就業意識とキャリア実現力が形成されているのか明らかにするべく調査票調査を実施した。本稿では、その「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」の結果を、単純集計を中心に概観することを目的としている⁽³⁾。以下調査票の構成にしたがい、「Ⅱ 基本属性について」「Ⅲ 就職予定先について」「Ⅳ 就職活動全般について」「Ⅴ 大学生活と就業意識について」という順で考察する。最後に、「Ⅵ おわりに：今後の研究課題」では、追加的な聞きとり調査などの実施可能性を検討し、この先の研究の方向性を提示する。

調査の概要は、表1(問1A)の通りである。2009年5月27日(水)～6月11日(木)に、中国山東省の済南市と青島市にある12大学(山東大学、中国海洋大学、山東師範大学、青島理工大学、青島科技大学、青島大学、青島農業大学、済南大学、山東経済学院、山東軽工業大学、山東財政学院、山東青年管理幹部学院)に在籍する日本語専攻の4年生を対象として実施した。中国の大学では6月に卒業を迎えるため、進路がほぼ確定しているこのタイミングで実施することが求められていた。末尾に「Ⅶ 調査結果」として全設問の単純集計表を掲載している⁽⁴⁾。

表1 調査概要(問1A)

大学名	配布数	回収数	回収率(%)
山東大学	62	37	59.68
中国海洋大学	42	15	35.71
山東師範大学	72	48	66.67
青島理工大学	60	25	41.67
青島科技大学	48	15	31.25
青島大学	60	24	40.00
青島農業大学	70	38	54.29
済南大学	60	30	50.00
山東経済学院	29	9	31.03
山東軽工業大学	30	10	33.33
山東財政学院	34	13	38.24
山東青年管理幹部学院	92	22	23.91
合計	659	286	43.40

注) 調査期間は2009年5月27日(水)～6月11日(木)(青島農業大学の38サンプルのみ2009年8月に郵送で回収)

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

対象となった12大学のうち、山東大学、中国海洋大学は教育部所属の大学で、その他は山東省政府所属の大学である。山東青年管理幹部学院は高等職業学校という3年制の短大である。大学の特徴や全国統一高等教育入学試験における各大学の合格点などの状況を総合的に考慮すると、山東大学、中国海洋大学、山東師範大学は上位校、山東青年管理幹部学院は下位校、その他は中位校と見なせるだろう。

対象を日本語専攻の4年生に限定した理由としては、主に以下の2点が挙げられる。第一に、専攻の違いによる就職活動への影響を統制することができるからである。また、日本語専攻は「就職に有利」であると認識されている点にも注目した。第二に、先に触れたように、日本語が堪能であれば、卒業後に日系企業あるいは日本と関係が深い企業に就職する可能性が高く、就職活動の方法やルートも日本の大学生と重なる部分があると考えられるからである。日本の大学生の就業意識やキャリア実現力との比較もしやすく、大学の就職支援体制などの環境面や、日系企業の両国の大学生に対する採用プロセスの違いなどについても分析の俎上に載せることができるだろう。いうまでもなく、日本語で作成した調査票をそのまま用いることができるのも大きな利点であったことを指摘しておきたい⁵⁾。

II 基本属性について

性別（問1B）は、男性が63サンプル（22.0%）に対して、女性が223サンプル（78.0%）であり、女性が男性を大幅に上回っている。これは日本と同様、文科系、特に外国語系専攻は女性に人気があり、在籍者の男女構成比がもともと女性に偏っていることが大きい。

年齢構成を見ると（問1C：自由記述）、21～23歳が253サンプル（88.5%）であり、この3歳の幅で大半を占めているが、24～25歳も33サンプル（11.5%）存在している。中国では、年齢の加算方法や地域ごとの入学年齢制限に違いがあるために、同一学年であっても日本よりは年齢差が生じやすいと考えられる。サンプルの最高年齢は25歳、最低年齢は21歳、平均年齢は22.6歳であった。

出身地（問1D：自由記述）については、234サンプル（81.8%）が大学所在地である山東省であるのに対して、それ以外の地域は53サンプル（18.2%）にとどまった。しかしながら、吉林省の10サンプルを筆頭に、河北省7サンプル、黒龍江省6サンプル、陝西省6サンプルなど、16省（地域）にわたって広範に分布している。

出身地を属性別に見ると（問1E）、都市部出身者となるのが94サンプル（32.9%）であり、農村部出身者となるのが188サンプル（65.7%）であった。農村部出身者の割合は、都市部出身者の2倍に相当する。

就職活動をしたかどうかを尋ねたところ（問2）、7割弱に当たる190サンプルが「した」を選択している。とはいえ、そのうち就職予定先が決まっているのは105サンプル

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

にとどまり、半数近い 83 サンプルの就職予定先が、卒業間際である調査時点で定まっていなかったことが明らかになった（問 4）。2008 年の後半に発生したリーマンショックに端を発する世界的な金融危機の影響があるのかどうかを含めて、その理由については別途詳しく検討する必要があるだろう。

就職活動に向けて具体的に活動を始めた時期について尋ねたところ（問 3：自由記述）、9 割を超える 174 サンプルが、2008 年 9 月から 2009 年 4 月までの 8 ヶ月間に集中していることが分かった。2009 年に入ってから活動を開始したのが 98 サンプル（51.6%）であるのに対して、2008 年から活動を開始していたのは 87 サンプル（45.8%）、2007 年から活動を開始していたのはわずか 2 サンプル（1.1%）であった。

日本の大学生であれば、概ね 3 年生の秋学期（卒業する約 1 年半前）が就職活動を始めの目安になっていることを考えると、若干の個人差は見られるものの、中国では動き始めるタイミングが日本よりも 1 年近く遅く、半年程度の短期間で進路を模索していることが分かる。

Ⅲ 就職予定先について

以下問 9 までは、就職予定先が決まっている 105 サンプルのみを対象とした設問である。

まず、就職予定先の種類について尋ねたところ（問 5A）、日本語専攻という強みが活かされたのか、「日系企業（合弁を含む）」が 29 サンプルと 3 割弱を占めて最も多く、次いで「中国・国有企業以外」が 27 サンプル（25.7%）、「中国・国有企業」が 13 サンプル（12.4%）となっている。日系企業以外も含めた外資系企業と中国企業ではほぼ二分されており、官庁（公務員）や教育機関は少数派であった。

その就職予定先の従業員規模については（問 5B）、「300 人未満」の小企業が 46 サンプルで最も多く、6 割近くに達している。「1000 人以上」の大企業と「300 人以上 1000 人未満」の中企業が同程度で存在し、それぞれ 18 サンプル（23.1%）と 13 サンプル（16.7%）であった。

その就職予定先の所在地（問 5C：自由記述）は、やはり 8 割方が地元の山東省である。その他に江蘇省、浙江省、チベットなどの回答も見られたが、いずれも数サンプルに過ぎなかった。そのため、所在地の属性としては、沿岸部や各省の省会都市が 7 割を占めることになる。

その就職予定先を知ったきっかけを尋ねたところ（問 5D）、「人材交流市場」の 38 サンプル（36.2%）、「企業説明会」の 22 サンプル（21.0%）がやや目に付いたが、それ以外の「大学の求人票」「先生の紹介」「家族や知り合いの紹介」「新聞や雑誌」「インターネット」はいずれも 1～2 割程度であった⁽⁶⁾。

その就職予定先が決まるまでに経験したプロセス（問 5E）として挙げた 6 項目につ

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

いては、いずれも半数以上のサンプルが選択していた。その中でも8割以上が選択していたのが「その就職予定先への応募書類の提出」の88サンプル、「その就職予定先の面接」の90サンプルであり、これらを経験しなければ就職活動は始まらないといっていだろう。

その他の項目については、「その就職予定先への資料請求及び収集」が66サンプル、「その就職予定先の説明会、従業員面談会、質問会への参加」が68サンプル、「その就職予定先の実習」が71サンプルと、いずれも6割以上が選択している一方で、「その就職予定先の筆記試験」を選択したのが58サンプルと比較的少なかった。就職予定先において、在学中に有償で実習を経験する学生が7割近くいるということが、日本とは若干事情が異なる点である⁷⁾。

さらに、各項目の詳しい内容を見ると、資料請求及び収集はWEBを通じて行われており、8割以上のサンプルが主な方法の具体例(自由記述)として挙げている。説明会などへの参加回数(自由記述)については、1~3回という回答が7割近くを占め、平均回数は3.2回であった。応募書類の提出方法(複数選択)もやはり「WEB」が主流であったが、「持参」も同程度あり、それぞれ半数近くのサンプルが選択している。

筆記試験の内容を「数学」「国語」「英語」「適性」に分けて尋ねたところ(複数選択)、「国語」「適性」がそれぞれ3割程度で、「数学」「英語」は若干少ない2割程度の回答にとどまっている。「その他」の自由記述では「日本語」が突出しており、最も多い20サンプルが回答していた。専攻する日本語の能力については、筆記試験を通じてしっかり確認されていることがうかがえる。

面接の回数(自由記述)については、1回が40サンプル、2回が30サンプルで、合わせて77.8%となった。3回という回答も1割程度あったが、平均回数は2.0回であり、概ね1~2回の面接を経て内定に至っているということが分かる。また、所要時間の合計を尋ねたところ(自由記述)、10分から240分という数値が挙げられており、かなりの個人差が見受けられるが、面接1回当たりの平均所要時間は31.3分という妥当な数値に落ち着いた。

実習の期間(自由記述)については、平均すると63.6日になり、約2ヵ月間に相当する。期間中の給料総額(自由記述)を月額に換算して平均すると26.2元となり、月額にして800元程度であることが分かった。調査時点での為替レート(1元=約14円)で換算すると、1万円余りということになる。

その就職予定先に応募した動機(問5F)については、「大学での専門分野との関連」が76サンプル(72.4%)と群を抜いて多く、他の項目の倍に匹敵する。「将来性・安定性」と「所在地」がそれぞれ38サンプル(36.2%)、「自分の能力や適性と合っている」が37サンプル(35.2%)、「職種・仕事内容」が36サンプル(34.3%)、「労働時間・休暇・福利厚生」が33サンプル(31.4%)と、ここまではいずれも3割以上を占め

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

ており、次いで「賃金の条件」の16サンプル(15.2%)、「従業員の魅力・職場の雰囲気」の15サンプル(14.3%)、「規模・知名度」の13サンプル(12.4%)が1割程度で続き、「評価・処遇の方法」と「経営(運営)理念・方針」については余り関心が払われていなかった。

これらは、日本の大学生による会社選択のポイントと比較してみると興味深い。毎日コミュニケーションズによる「大学生の就職意識調査(10卒版)⁽⁸⁾」によると、日本の大学生の会社選択のポイントの上位項目として「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」「安定している会社」「働きがいのある会社」「社風が良い会社」「勤務制度、住宅など福利厚生の良い会社」「給料のよい会社」「一生続けられる会社」などが挙げられている。

両者を照らし合わせてみると、「大学での専門分野と関連」「所在地」は、今回の調査における中国の大学生ならではの動機付けであり、日本語という明確な専門分野を持つことや、特有の戸籍制度などが影響していると考えられる。一方、日本の大学生が重視していた「賃金の条件」や、社風に通じる「従業員の魅力・職場の雰囲気」は、それほど強い動機付けになっていなかった。共通しているのは、福利厚生の充実している安定した職場で、自分のやりたい仕事がしたいという明確な希望である。

次に就職予定先と協定を結んだ時期(問5G:自由記述)を見ると、2009年3~6月、すなわち卒業直前の3ヵ月間にほぼ集中していることが分かった。

就職予定先に関してどの程度知っているかを8項目について4段階で尋ねたところ(問6)、「よく知っている」「少し知っている」を選択したのは、「仕事内容」が100サンプル(95.2%)、「労働時間・残業時間の長さ」が90サンプル(85.7%)、「基本給や残業手当など」が92サンプル(87.6%)、「職場の雰囲気」が88サンプル(83.8%)など高い値を示しているのに対して、「能力開発の機会」は79サンプル(75.2%)、「昇進の可能性」は67サンプル(63.8%)、「従業員の平均年収」は61サンプル(58.1%)とやや低く、「従業員の3年以内の離職率」は50サンプル(47.6%)と一段と低かった。どういう仕事について、どれくらい働き、どれくらいもらえるのか、という基本的な事項と、面接などを通じて知り得た職場の雰囲気以上のことは、さほど把握できているとは思えない実態が浮かび上がる。

就職予定先に関してどの程度満足しているかを7項目について5段階で尋ねたところ(問7)、「非常に満足」「まあ満足」を選択したサンプルの割合は、いずれも6割を超える高い値を示している。「賃金の条件」についても70サンプル(66.7%)が満足しているが、実際に就職予定先でもらえる初任給(月額)を見ると(問8:自由記述)、海外勤務を除く中国国内での最高額は2800元、最低額は500元で、かなりの個人差が存在している⁽⁹⁾。とはいえ、平均すると1763元となり、これはもともと希望していた初任給(月額)の平均2001元、最低でも欲しいと思っていた初任給(月額)の平均1447元

に匹敵する額である。「賃金の条件」における満足度を裏付ける結果であるとも見なせるのではないか。

就職予定先で何年ぐらい働くつもりですかという設問に対しては（問9）、「1年以下」「2～3年」を合わせて88サンプル（84.1%）が選択している。中国の大学生は、就職する前から長く働くつもりがないことが明らかになった。

IV 就職活動全般について

以下問17までは、就職活動をした190サンプルのみを対象とした設問である。

就職活動をするに当たって準備したことについて、まず筆記試験（適性検査）やWEBテストに関しては（問10A）、「準備をして、実際に受けた」が68サンプル（35.7%）、「準備をしたが、実際には受けなかった」が42サンプル（22.1%）、「準備をしなかったが、実際に受けた」41サンプル（21.6%）、「準備をしなかったし、実際にも受けなかった」32サンプル（16.8%）という回答を得た。4割近くのサンプルが、全く試験対策をしなかったことになる。

履歴書などの応募書類をどのように作成したかを尋ねたところ（問10B）、「すべて自力で作成した」が117サンプル（61.6%）で最も多く、次いで「家族や知り合い、友人、先生などに助言してもらった」が68サンプルで4割弱を占めており、「大学の就職支援センターの先生に指導してもらった」は1割強にとどまった。

面接の練習をしましたかという設問に対しては（問10C）、「どのような質問をされるかを予想し、事前に練習した」が119サンプル（62.6%）で最も多く、「特に練習しなかった」が72サンプル（37.9%）で続き、「家族や知り合い、友人、先生などに面接の相手をしてもらった」「模擬面接を受けた」という回答は、いずれも1割未満であった。中国の大学生は、比較的自力で就職活動に立ち向かう傾向にあり、その分視野が狭くなったり、独りよがりになったりする恐れもあることが、問10を通じて見出された。

就職活動全般について、まず一番興味を持っている、あるいは興味を持っていた業界に関して（問11A）最も多かった回答は「商社（貿易）」であり、101サンプル（53.2%）が選択している⁽¹⁰⁾。次いで「教育機関」が57サンプル（30.0%）、「官庁（公務員）」が50サンプル（26.3%）であり、「製造業」「金融・保険業」「運輸・通信業」「マスコミ・広告」「小売業」と「特になし」を選択したのは、いずれも1割未満であった。

一番興味を持っている、あるいは興味を持っていた職種を尋ねたところ（問11B）、当然のことながら「通訳」が84サンプル（44.2%）で1位を占め、「教員」の42サンプル（22.1%）と「営業」の39サンプル（20.5%）が続く。「人事」「企画」「財務」「購買」などの職種は、いずれも1割前後であった。

履歴書などの応募書類を何通出しましたかという設問に対しては（問11C）、「6～10

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

通」「11～20通」「31通以上」という回答が、いずれも43サンプルの22.6%であり、「1～5通」が40サンプル(21.1%)で続き、「21～30通」が19サンプル(10.0%)であった。

しかし、実際に面接を受けた企業(官庁、教育機関なども含む)はいくつあるかという(問11D)、「1～5」が122サンプルで64.2%に達し、次いで、「6～10」が49サンプル(25.8%)、「11～20」が15サンプル(7.9%)である。履歴書などの応募書類を出した数が多かったにもかかわらず、実際に面接を受けた数はそれほど多くはない。単に面接まで辿り着けなかっただけなのか、あるいは他に理由があるのかについては、別途精査が必要である。

就職活動に関して、大学で利用できる就職支援としては(問12)、「4年生向け就職招聘会」が153サンプル(80.5%)、「企業説明会の招致や開催など」が149サンプル(78.4%)と最も多く選択され、次いで「履歴書などの書き方・添削指導」が90サンプル(47.4%)、「就職ガイダンス」が77サンプル(40.5%)、「業界・職種紹介セミナー」が55サンプル(29.0%)、「求人票」が50サンプル(26.3%)、「模擬面接」が41サンプル(21.6%)、「特になし」が9サンプル(4.7%)の順であった。同じ大学の学生であっても回答にばらつきがあり、情報の把握に個人差が見られるのが実情である。

大学で実際に利用した就職支援としては(問13)、同じく「4年生向け就職招聘会」と「企業説明会の招致や開催など」が最もよく利用され、利用できる就職支援として選択したサンプルの7～8割が実際に利用している。一方、その他の就職支援については、いずれも実際に利用しているのは半数程度で、特に「模擬面接」は、利用できる就職支援として選択したサンプルの3割弱しか実際に利用していなかった。

就職活動をする上で、自分の強み、あるいは弱みであると考えることを具体的に尋ねたのが問14(自由記述)である。147サンプルが回答しており、回答率は8割近い。強みの内容から「まじめ」「責任感」「自信がある」というキーワードが浮かび上がるのに対して、弱みの内容でも「自信がない」が目につく。しかし、後者は社会経験や日本語、パソコンなど、何らかの知識や能力の不足に基づくものとして挙げられている。大学生であるにもかかわらず、社会経験の少なさを弱みと自覚しているのは、中国の労働市場では中途採用が主流であるからだろう。

面接でうまく答えられなかった質問、あるいは戸惑った質問を具体的に尋ねたのが問15(自由記述)である。91サンプルが回答しており、回答率は5割弱であった。内容で目立っていたのは、意外にも志望理由や自身の性格、これまでの経験や将来展望など、いわゆる「企業分析」「自己分析」と称して真っ先に手がけておくはずのことである。また、賃金に関する希望などを直裁に聞かれたり、私的なこと(恋人の有無など)に踏み込まれたりするのも戸惑いが大きいようであった。

就職活動をするに当たって、企業や大学に支援して欲しいことを具体的に尋ねたのが

問 16（自由記述）である。103 サンプルが回答しており、回答率は 5 割強であった。企業に支援して欲しいこととしては、より多くの実習の機会や情報の提供、また中途採用が主流であることから、社会経験の少なさを否定的に見ないで欲しいという回答などが寄せられた。しかし、むしろ内容にまとまりがあったのは、大学に支援して欲しいことのほうであり、切実に就職情報および指導の充実を求めていることがうかがえる。

応募先を選ぶときに重視した条件としては（問 17）、就職予定先が決まっているサンプルに対して、就職予定先への応募動機を尋ねた問 5 F と大差のない回答を得ている。ただし、「大学での専門分野との関連」が 102 サンプル（53.7%）と最も多かったのは共通しているが、次いで「自分の能力や適性と合っている」「職種・仕事内容」などの仕事内容へのこだわりともいべき項目が先行する点が、就職予定先が決まっていないサンプルも含まれていることの現れであるといえるかもしれない。

V 大学生活と就業意識について

以下問 21 までは、全サンプルを対象とした設問である。

大学時代に経験した活動については（問 18）、7 割がアルバイトを経験しており、仕事内容（自由記述）としては、「家庭教師」「通訳」「飲食店」「レジ・販売」などが上位を占めた。平均期間（自由記述）は 4.6 ヶ月である。また、学生会（サークル）を経験したサンプルは、3 割程度に過ぎないことが分かった。また、6 割が何らかの資格を取得しており、語学系では、英語 4 級、6 級が合わせて 89 サンプル（51.4%）、専攻する日本語では、1 級取得者が 8 割近くに達している。その他に情報処理系として、パソコン 2 級などの資格名も挙げられていた（自由記述）。

将来の職業生活についてどのように考えているのかを尋ねたところ（問 19）、最も多く選択されているのは 197 サンプル（68.9%）の「専門的な知識や技術を磨きたい」であり、「仕事以外に自分の生きがいをもちたい」が 176 サンプル（61.5%）、「安定した職業生活を送りたい」が 113 サンプル（39.5%）で続く。その他 1 割以上が選択した回答として「若いうちは一つの仕事にとどまらず、色々経験したい」「自分に合わない仕事ならしたくない」「他人の役に立つ仕事をしたい」「他人よりも高い賃金を得たい」があった。

最後に、卒業後の進路についてであるが（問 20）、この設問は既に決定している進路ではなく、将来的にどのような進路を考えているかという希望を尋ねていると誤解して選択しているサンプルが見受けられた。したがって、就職予定先が決まってい問 5 A で回答しているにもかかわらず、それとは異なる進路を選択しているサンプルが若干あり、就職予定先が「外資・日系企業以外（合弁を含む）」で卒業後の進路が「日系企業（合弁を含む）」というパターンなどが見られる。

一方、就職活動はしたものの就職予定先が決まっていない 85 サンプルについては、3

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

割に当たる 27 サンプルが進路も「未定」のままである。「進学」が 13 サンプル、「留学」が 10 サンプルで、合わせて 3 割弱を占め、残りは「日系企業（合弁を含む）」を中心に将来的な希望を選択したのではないと思われる。

また、就職活動自体をしなかった 96 サンプルについては、やはり「進学」が 38 サンプル（39.6%）、「留学」が 24 サンプル（25.0%）と多く、これらに「官庁」「教育機関」「未定」を合わせると 9 割に到達する。残りはそう多くはないが、就職活動をせずとも縁故などで決定した進路を選択したのか、あるいは将来的な希望を選択したのかは定かではない。

なお、これらの進路決定の理由（自由記述）およびこの調査全般に関する意見、感想、質問などを求めた問 21（自由記述）については省略する。

VI おわりに：今後の研究課題

以上の調査結果より、今後ますます増加が見込まれるボーダレスな採用、就職を考える上で示唆に富む貴重な手がかりが与えられたことは論を待たない。

まず明らかにしたのは、日本の大学生と競合する可能性が高まりつつある中国の、かつ日本語が堪能な大学生の就職活動における実態である。中国では、かつて国家が強く関与していた新規大卒者の就職が市場に委ねられるようになり、大学生と企業等がその過渡期ともいべき環境変化の中でマッチングを試みている。急速に数を増し続けている大卒者や近年の世界的な景気後退を背景として、そのことに起因する問題が様々な形で表出していると感じていただろう。

徐・来島 [2006] は、やはり独自の調査票調査の結果に基づいて、中国の大学生は職業に対して漠然とした認識しか持ち合わせておらず、終始一貫して就職行動を規定するほどの強固で明確な就業意識はないと指摘している⁽¹¹⁾。そのことは、本稿でも主な応募動機が福利厚生の実施している安定した職場で、自分のやりたい仕事をしたという漠然とした希望であったり、長く働くつもりで意思決定をしているわけではなかったりという傾向が見られることで裏付けられている。

しかし、今回の調査における中国の大学生は、日本語という明確な専門分野を持っているため、それを活かす形での進路を相当程度意識しており、将来の職業生活についても「専門的な知識や技術を磨きたい」と考えているのも事実である。今後就業意識を議論するに当たっては、専門分野による差異を視野に入れていかなければならないだろう。

とはいえ、これらの傾向は日本の大学生についてもあてはまることではないか。ただし、明らかに温度差が存在する。就職活動に投入する時間（期間）や自己分析、企業分析、各種試験対策など、よりよい職場を得るために努力すべきこと、準備すべきことが、日本の大学生に比べて中国の大学生は十分でないように見受けられる。そのような

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

差が生じるのは、一つには大学の就職支援体制の違いが大きいのではないか。

日本の大学における就職支援体制の充実振りは、過保護といってもいいくらいである。いつ、どのようにして就職活動を開始すればいいのかを教えることから始まり、無事に内定まで辿り着けるよう精神面までも含めて支える。それに対して中国の大学生は、ほぼ自力で就職活動を展開しているようであり、結果がはかばかしくなくても、打開できないまま卒業時期を迎えてしまっている。そのことが、その後のキャリア形成にどのような影響を与えていくのかは懸念されるところだろう。

では、受け入れる側である日系企業にとってはどうなのか。独立行政法人労働政策研究・研修機構による「日本企業における留学生の就労に関する調査」⁽¹²⁾によると、調査対象企業が留学生を採用したのは「国籍に関係なく優秀な人材を確保するため」であり、留学生に期待する将来の役割として「一般の日本人社員と同様に考えている」という回答が主流であった。

これは、留学生を差別しない姿勢の現れであると肯定的に評価することもできるし、国籍が異なる人材を活用する方策についての配慮が足りないと否定的に評価することもできる結果である。そして実際のところ、留学生が企業に希望する定着・活躍のための施策を見ると、後者の評価に至らざるを得ない。多くの留学生が希望していたのは、「日本人社員への異文化への理解度を高める」「外国人向けの研修を実施する」「短期間の勤務でもキャリア形成できる多様なコースを用意する」「労働時間を短くし仕事と私生活を両立できるようにする」というような施策であり、企業側の回答とは大きな隔たりがあるからである。

留学生だけでなく、日系企業が外国人労働者と相対する際には、同じような齟齬に直面することが予想される。中国だけ、新規大卒者だけを取り上げても、中国人留学生を日本で採用する場合もあれば、帰国した後に現地で採用する場合もある。中国の新規大卒者をそのまま現地で採用する場合もあれば、来日によって日本で採用する場合もあるだろう。それぞれの場合に応じて、採用プロセスや日本人採用者との兼ね合いなどを変化させるといった柔軟な対応が求められるのではないか。そのことが、採用後の良好なパフォーマンスを導く要因となり得ることは想像に難くない。

日系企業にとってかかわりの深い中国の大学生の就職活動の実態を踏まえて、日系企業における人材活用のグローバル化の現状を把握し、以上のような視点からの分析と展望を試みるのが今後の研究課題として残されている。

Ⅶ 調査結果

問 1 B 性別

	Freq.	%		Freq.	%
男性	63	22.03	女性	223	77.97
			Total	286	100.00

問 1 C 年齢

	Freq.	%		Freq.	%
21 歳	20	6.99	24 歳	27	9.44
22 歳	103	36.01	25 歳	6	2.10
23 歳	130	45.45	Total	286	100.00

問 1 D 出身地

	Freq.	%		Freq.	%		Freq.	%
山東省	234	81.82	河南省	3	1.05	江西省	1	0.35
吉林省	10	3.50	安徽省	3	1.05	河南省	1	0.35
河北省	7	2.45	江蘇省	3	1.05	浙江省	1	0.35
黒竜江省	6	2.10	北京	2	0.70	チベット	1	0.35
陝西省	6	2.10	天津	2	0.70	上海	1	0.35
遼寧省	4	1.40	湖南省	1	0.35	Total	286	100.00

問 1 E 出身地の属性

	Freq.	%		Freq.	%
都市部	94	32.87	N.A.	4	1.40
農村部	188	65.73	Total	286	100.00

問 2 あなたは就職活動をしましたか。

	Freq.	%		Freq.	%
した	190	66.43	しなかった	96	33.57
			Total	286	100.00

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問3 あなたは就職に向けて具体的に活動を始めたのはいつですか。(例：WEBの登録、就職招聘会への参加、人材交流市場への足運び、履歴書の作成など)

	Freq.	%		Freq.	%
2007年	2	1.05	2009年1～4月	91	47.89
2008年1～8月	4	2.11	2009年5～6月	6	3.16
2008年9～12月	83	43.68	N.A.	3	1.58
			Total	190	100.00

問4 あなたは就職予定先が決まっていますか。

	Freq.	%		Freq.	%
決まっている	105	55.26	N.A.	2	1.05
決まっていない	83	43.68	Total	190	100.00

問5 あなたの就職予定先についてお答えください。

問5A その就職予定先の種類についてお答えください。

	Freq.	%		Freq.	%
中国・国有企業	13	12.38	官庁(公務員)	10	9.52
中国・国有企業以外	27	25.71	教育機関	5	4.76
日系企業(合弁を含む)	29	27.62	その他	4	3.81
外資・日系企業以外(合弁を含む)	9	8.57	Total	105	100.00

問5B その就職予定先の従業員規模は何人くらいですか。

	Freq.	%		Freq.	%
1000人以上	18	23.08	300人未満	46	58.97
300人以上1000人未満	13	16.67	N.A.	1	1.28
			Total	78	100.00

問5C その就職予定先の所在地はどこですか。

	Freq.	%		Freq.	%
山東省	85	80.95	チベット	1	0.95
江蘇省	4	3.81	N.A.	14	13.33
浙江省	1	0.95	Total	105	100.00

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問 5 D その就職予定先を知ったきっかけは何でしたか。

	Freq.	%		Freq.	%
大学の求人票	14	13.33	インターネット	15	14.29
先生の紹介	18	17.14	人材交流市場	38	36.19
家族や知り合いの紹介	15	14.29	企業説明会	22	20.95
新聞や雑誌	10	9.52	その他	2	1.90

問 5 E その就職予定先が決まるまでに経験したプロセス全てに○をつけてください。
○をつけたプロセスについては、()内の質問にもお答えください。

	Freq.	%		Freq.
その就職予定先の資料請求及び収集	66	62.86	WEB	55
			先生からの紹介	4
			その他	5
その就職予定先の説明会、従業員面談会、質問会への参加	68	64.76	1～3回	46
			4～10回	20
その就職予定先への応募書類の提出	88	83.81	WEB	40
			郵送	19
			持参	38
その就職予定先の筆記試験	58	55.24	数学	11
			国語	19
			英語	13
			適性	18
			日本語	20
その就職予定先の面接	90	85.71	1～2回	70
			3回	12
			所要時間(1回当たり平均:分)	31.33
その就職予定先の実習	71	67.62	期間(平均:日)	63.57
			期間中給料(平均日額:元)	26.15

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問 5 F その就職予定先に応募した動機について、当てはまる番号に3つ以内で○をつけてください。

	Freq.	%		Freq.	%
大学での専門分野と関連	76	72.38	賃金の条件	16	15.24
将来性・安定性	38	36.19	従業員の魅力・職場の雰囲気	15	14.29
所在地	38	36.19	規模・知名度	13	12.38
自分の能力や適性と合っている	37	35.24	評価・処遇の方法	5	4.76
職種・仕事内容	36	34.29	経営（運営）理念・方針	4	3.81
労働時間・休暇・福利厚生	33	31.43			

問 5 G その就職先と協定を結んだ時期はいつですか。

	Freq.	%		Freq.	%
2008年	4	3.81	2009年3～6月以外	16	15.24
2009年3～6月	64	60.95	N.A.	21	20.00
			Total	105	100.00

問 6 あなたは就職予定先に関する以下の8項目について、どの程度知っていますか。

	よく知っている		少し知っている		殆ど知らない		全く知らない	
	Freq.	%	Freq.	%	Freq.	%	Freq.	%
仕事内容	47	44.76	53	50.48	4	3.81	1	0.95
労働時間・残業時間の長さ	50	47.62	40	38.10	11	10.48	3	2.86
基本給や残業手当など	34	32.38	58	55.24	11	10.18	1	0.95
職場の雰囲気	35	33.33	53	50.48	15	14.29	2	1.90
昇進の可能性	19	18.10	48	45.71	35	33.33	3	2.86
能力開発の機会	23	21.90	56	53.33	22	20.95	3	2.86
従業員の3年以内の離職率	16	15.24	34	32.38	37	35.24	18	17.14
従業員の平均年収	10	9.52	51	48.57	30	28.57	13	12.38

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問7 あなたは就職予定先に関する以下の7項目について、どの程度満足していますか。

	非常に満足		まあ満足		少し不満		非常に不満		わからない	
	Freq.	%	Freq.	%	Freq.	%	Freq.	%	Freq.	%
所在地	32	30.48	57	54.29	12	11.43	3	2.86	1	0.95
規模・知名度	14	13.33	62	59.05	22	20.95	6	5.71	1	0.95
職種・仕事内容	24	22.86	58	55.24	20	19.05	2	1.90	1	0.95
賃金の条件	11	10.48	59	56.19	27	25.71	5	4.76	2	1.90
労働時間・休暇	31	29.52	39	37.14	27	25.71	5	4.76	3	2.86
福利厚生	19	18.10	47	44.76	27	25.71	5	4.76	6	5.71
評価・処遇の方法	12	11.43	65	61.90	18	17.14	3	2.86	7	6.67

問8 あなたの初任給（月額）に関する希望と、就職予定先での初任給（月額）についてお答えください。

	最小値(元)	最大値(元)	平均値(元)
もともと希望していた初任給（月額）	600	5000	2001
最低でも欲しいと思っていた初任給（月額）	500	3000	1447
実際に就職予定先でもらえる初任給（月額）	500	15000	1763

問9 あなたは就職予定先で何年ぐらい働くつもりですか。

	Freq.	%		Freq.	%
1年以下	14	13.33	6年以上	9	8.57
2～3年	74	70.78	N.A.	1	0.95
4～5年	7	6.67	Total	105	100.00

問10 あなたが就職活動をするに当たって準備したことについてお答えください。

問10 A 筆記試験（適性検査）やWEBテストについてお答えください。

	Freq.	%
準備をして、実際に受けた	68	35.79
準備をしたが、実際に受けなかった	42	22.11
準備をしなかったが、実際に受けた	41	21.58
準備をしなかったし、実際にも受けなかった	32	16.84
N.A.	7	3.68
Total	190	100.00

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問 10 B 履歴書などの応募書類をどのように作成しましたか（複数回答可）。

	Freq.	%
すべて自力で作成した	117	61.58
家族や知り合い、友人、先生などに助言してもらった	68	35.79
大学の就職支援センターの先生に指導してもらった	27	14.21
その他	3	1.58

問 10 C 面接の練習をしましたか（複数回答可）。

	Freq.	%
特に練習しなかった	72	37.89
どのような質問をされるかを予想し、事前に練習した	119	62.63
家族や知り合い、友人、先生などに面接の相手をしてもらった	18	9.47
模擬面接を受けた	16	8.42

問 11 あなたの就職活動全般についてお答えください。

問 11 A 一番興味を持っている、あるいは興味を持っていた業界はどこですか。

	Freq.	%		Freq.	%
製造業、建設業	11	5.79	小売業	5	2.63
金融・保険業	18	9.47	官庁（公務員）	50	26.32
商社（貿易）	101	53.16	教育機関	57	30.00
運輸・通信業	10	5.26	特になし	9	4.74
マスコミ・広告	18	9.47	その他	3	1.58

問 11 B 一番興味を持っている、あるいは興味を持っていた職種は何ですか。

	Freq.	%		Freq.	%
営業	39	20.53	通訳	84	44.21
企画	24	12.63	一般事務	21	11.05
財務	10	5.26	教員	42	22.11
購買	10	5.26	特になし	10	5.26
人事	29	15.26	その他	3	1.58

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問 11 C 履歴書などの応募書類を何通出しましたか。

	Freq.	%		Freq.	%
1～5 通	40	21.05	21～30 通	19	10.00
6～10 通	43	22.63	31 通以上	43	22.63
11～20 通	43	22.63	Total	190	100.00

問 11 D 実際に面接を受けた企業（官庁，教育機関なども含む）はいくつですか。

	Freq.	%		Freq.	%
1～5	122	64.21	21～30	1	0.53
6～10	49	25.79	31 以上	0	0.00
11～20	15	7.89	N.A.	3	1.58
			Total	190	100.00

問 12 就職活動に関して，大学で利用できる就職支援全てに○をつけてください。

	Freq.	%		Freq.	%
就職ガイダンス	77	40.53	企業説明会の招致や開催など	149	78.42
求人票	50	26.32	4 年生向け就職招聘会	153	80.53
履歴書などの書き方・添削指導	90	47.37	その他	5	2.63
業界・職種紹介セミナー	55	28.95	特になし	9	4.74
模擬面接	41	21.58			

問 13 就職活動に関して，大学で実際に利用した就職支援全てに○をつけてください。

	Freq.	%		Freq.	%
就職ガイダンス	38	20.00	企業説明会の招致や開催など	113	59.47
求人票	27	14.21	4 年生向け就職招聘会	127	66.84
履歴書などの書き方・添削指導	53	27.89	その他	4	2.11
業界・職種紹介セミナー	30	15.79	特になし	6	3.16
模擬面接	11	5.79			

問 14 あなたが就職活動をする上で，自分の強み，あるいは弱みであると考えることを，それぞれ具体的に教えてください。

問 15 あなたが面接でうまく答えられなかった質問，あるいは戸惑った質問があれば

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

ば、具体的にお答えください。

問 16 あなたが就職活動をするに当たって、企業や大学に支援して欲しいことがあれば、それぞれ具体的にお答えください。

問 17 あなたは応募先を選ぶとき、どのような条件を重視しましたか。当てはまる番号3つ以内で○をつけてください。

	Freq.	%		Freq.	%
大学での専門分野との関連	102	53.68	賃金の条件	56	29.47
自分の能力や適性と合っている	80	42.11	従業員の魅力・職場の雰囲気	23	12.11
職種・仕事内容	76	40.00	規模・知名度	16	8.42
将来性・安定性	73	38.42	経営（運営）理念・方針	12	6.32
労働時間・休暇・福利厚生	68	35.79	評価・処遇の方法	4	2.11
所在地	65	34.21	その他	2	1.05

問 18 あなたが大学時代に経験した活動全てに○をつけてください。○をつけた活動については、（ ）内の質問にもお答えください。

	Freq.	%	平均期間(ヵ月)	仕事内容・資格名	Freq.
アルバイト	208	72.73	4.61	家庭教師	75
				通訳	26
				飲食店	29
				レジ・販売	33
				その他	30
				N.A.	15
学生会	94	32.87	15.34		
資格の取得	173	60.49		英語 4 級	46
				英語 6 級	43
				日本語 1 級	135
				パソコン 2 級	24
1～3 の活動は経験しなかった	25	8.74			

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

問 19 あなたは将来の職業生活についてどのように考えていますか。当てはまる番号を3つ以内で○をつけてください。

	Freq.	%
仕事以外に自分の生きがいを持ちたい	176	61.54
若いうちは一つの仕事にとどまらず、色々経験したい	102	35.66
専門的な知識や技術を磨きたい	197	68.88
他人より高い賃金を得たい	51	17.83
有名になりたい	18	6.29
他人の役に立つ仕事がしたい	57	19.93
あまりがんばって働かず、のんびり暮らしたい	22	7.69
安定した職業生活を送りたい	113	39.51
自分に合わない仕事ならしたくない	61	21.33
将来の生活については考えていない	9	3.15

問 20 卒業後の進路と進路決定の理由をお答えください。

	Freq.	%		Freq.	%
進学	53	18.53	外資・日系企業	44	15.38
留学	38	13.29	外資・日系企業以外	7	2.45
官庁	24	8.39	その他	2	0.70
教育機関	19	6.64	未定	46	16.08
中国・国有企業	16	5.59	N.A.	14	4.90
中国・国有企業以外	23	8.04	Total	286	100.00

問 21 この調査全般に関してご意見、ご感想、ご質問などがありましたら、自由に記入ください。

注

- (1) 詳細は、独立行政法人中小企業基盤整備機構経営支援情報センター [2006]『平成 17 年度 中小企業活動支援調査 人材育成のための教育と評価の研究』および独立行政法人中小企業基盤整備機構経営支援情報センター [2007]『平成 18 年度 中小企業活動支援調査 人材育成のための教育と評価の研究』を参考にされたい。
- (2) http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data/08.html による。
- (3) 就業意識とキャリア実現力に着目したより精緻な分析は、筆者の一人(宋)が 2009 年度同志社大学大学院社会学研究科産業関係学専攻修士論文(2010 年 3 月)において展開する予定である。
- (4) 問 14~16、問 21 の自由記述を除く。

「中国における日本語専攻大学生の就職活動に関する調査」報告

- (5) 設問の理解および回答の状況はいずれも良好であり、調査対象者の日本語能力の高さを改めて認識することになった。
- (6) 単一選択を想定していた設問であったが、複数選択が目立ったため、それをそのまま活かす形で集計している。
- (7) 文部科学省の「大学等における平成19年度インターンシップ実施状況調査」によると、授業科目として実施されているインターンシップに限定されるが、インターンシップ体験学生数(大学)は4万9726人であった。同省の「学校基本調査」による同年度の学生数計は282万8708人である。
- (8) http://job.mynavi.jp/conts/saponet/enq_gakusei/ishiki/ishiki_09/index.html
- (9) 海外勤務を予定している者で15000元という高額回答が見られた。
- (10) 単一選択を想定していた設問であったが、複数選択が目立ったため、それをそのまま活かす形で集計している。問11Bも同様。
- (11) 徐亜文・来島浩 [2006], 「中国における新規大学卒業者の就職難の実態－山東省の事例を中心に－」, 研究論叢, 人文科学・社会科学(山口大学), 56(1/2), pp.77-105.
- (12) <http://www.jil.go.jp/institute/research/2009/057.htm> による。この調査では、調査対象留学生902名のうち698名(77.4%)が中国国籍であった。

*2009年10月15日受付, 11月18日掲載決定